

柳津町森林利活用ビジョン策定

第4回検討委員会 議事録

令和6(2024)年11月26日(水) 10:00~12:00

場所：柳津町地域住民交流センター・ゆきげ館

【出席メンバー】

出席委員：山下詠子座長（東京農業大学地球環境科学部森林総合科学科 准教授）

木村憲一郎アドバイザー（富士大学経済学科 教授）

竹内啓恵第4回講演会講師（東京農業大学非常勤講師）

委員7名（町内林業事業者、観光関係者、商工関係者）

出席オブザーバー：高鷺淳一オブザーバー（林野庁関東森林管理局会津森林管理署森林技術指導員）

木村充オブザーバー（福島県会津農林事務所森林林業部 林業課長）

渡部雅広オブザーバー（奥会津振興センター事務局次長）

事務局：田部遼介（柳津町役場地域課農林振興係副主査）

受託事業者：会津里山森林資源育成研究会 会長星比呂志・副会長齋藤洋一・事務局長岩淵良太

第4回検討会 次第

1. 開会 「司会 会津里山森林資源育成研究会・岩淵良太氏」 ※以後、所属は研究会と略称
2. 挨拶 「柳津町地域振興課 課長 杉原満」
3. 第3回検討会及び第4回検討会について 「事務局」
4. 議事「司会：検討会座長 山下詠子氏」
 - (1) ビジョンを構成する項目について
第4回講演会の概要（竹内啓恵先生）
 - (2) 50年後の柳津町の森林について（座長、各委員）
 - (3) 柳津町の森林利活用ビジョンの原案について「事務局」
 - (4) その他 アドバイザー、オブザーバー等によるアドバイス等
5. その他
 - (1) 第5回検討会について
 - (2) 第2回先進地視察研修について
 - (3) 事務連絡
6. 閉会

【配布資料】

【内容・議事録】

1.開会	
事務局	昨日に続き、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまより柳津町森林活用ビジョン策定第4回検討会を始めさせていただきます。次第に従って進めていきますのでよろしくお願いいたします。
2.挨拶	
柳津町地域振興 副主査 田部	<p>課長が議会对応等で、出席できないということで、ご挨拶の方を預かってまいりましたので代読をさせていただきます。</p> <p>柳津町森林活用ビジョン検討会の委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。また昨日からの講演会にもご出席いただいた方に関しましては、御礼を申し上げたいと思います。これまで皆様からいただいた意見を基に、ビジョンの素案などを取りまとめさせていただいたところです。これを元に皆さんの意見をさらに集約して、50年後のあるべき姿と来年度から取りかかるアクションプランの方、選定を進めていきたいと思っておりますので、ご意見を頂戴したいというところがあります。</p> <p>また第2回の先進地視察に関して、前回は全員参加という形で希望をとらせていただきましたが、今回少し規模を絞っての開催になろうかと思っております。先進地視察に関しましても、こちらぜひ12月20日から21日の日程を予定しているというふうに伺っていますが、そこに向けて、こちらに関しても先進地の視察、ぜひともご参加をいただければと思います。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。</p>
3.第3回及び第4回検討会について	
事務局（星）	<p>第3回および第4回検討会について、最初に資料の確認です。第4回検討会と表紙についての、別添の資料の2として、2次元バーコードの入ったものは講演会をYouTubeに知っている方だけ見られるという状況でアップロードしてあります。編集一切なしで、そのままの状態が入っていますので、もう1回見るといろんな気づきがあるのでぜひご覧ください。横長の資料マインドマップの図があります。このマインドマップをもとにして、今回のビジョンの素案が作られています。ご覧いただきますとご自身のご意見が入っているかと思っております。その1個1個の意見を拾い上げて、今回のビジョンを作成しております。それから、ビジョン原案素案と、ゾーニングの別委託事業の中間報告図がございます。資料については以上です。</p> <p>それでは、前回の第3回の検討会につきましては、5ページから資料1とし、全体の議事録でございます。前回は10月23日に森林公園と道の駅の2箇所で開催しております。非常に皆様のたくさんのご意見としてやはり外で実際に見ながらやるとたくさんの意見があると思って聞いておりました。森林公園でやりましたので、森林公園が昔から町民のためにかなり役立っていて、学校教育だとか地域の皆さんの中で非常に活用されて、その当時はまだ若い森林でどんどん今成長しています。また、ひと月前に少し見たときは鬱蒼としたような箇所もあり、なかなか活用がしにくく、竹内先生の方でも女性が入りにくく怖いなっていうような感じもありました。活用されていない状況があるので、整備して活用した方がいいのではないかという議論ご意見がたくさん出たかと思っております。</p> <p>同時に50年後の柳津町の森林公園のあるべき姿についてお話もありました。大きな柱としては、当初は町民のためっていうのと、観光とその両方の目的で作られていますけれど、今後は町民のための公園として、整備していく方向で、そのために50年後の姿、森林とし</p>

でもやはり町民のための森というような視点が重要ではないかというような意見がたくさんありました。そういったところで、町民が集う森という視点が大変重要ではないかというようなお話があったかと思います。

最後にアドバイザーのご意見があります。まず木村先生からは、現場でいろんなことを、今後町民のためにその活用を図ってほしい。それから、やはりその食べること動くことという視点を大事にしてほしいと頂きました。

次に、農林事務所の木村課長から、森林公園の内容はよかったけれど、もう一つ森林を利用する柱として、柳津町の森林整備計画があるので、その中に各森林の林班ごとのゾーニングがあるので、よく見てそれを踏まえて今後の事業計画をすることが大事です。

最後に、奥会津振興センター渡部オブザーバーからは、地域作りのために、森林公園を役立てるような、また非常に良い立地にあるので、ぜひ活用していただきたいという、お話がございました。以上です。

4, 議事【司会：検討委員会座長 山下詠子氏】

(1)
ビジョンを構成する項目について
第4回講演会の概要(竹内先生)

身近な森で健康作りということで、主に私の実践事例を中心に話していきたいと思います。

初めに行ったのが東京農業大学に入って研究したのが、放置林の保育作業前後の気分の変化ということで研究しました。一般の人たちが森に行き、簡単な整備をすることで、森も人も元気になっていくということです。林地にある残材を片付けや数本の間伐をして、多少の光が入ってきたとか、やっぱり手入れをすることで変化がありました。最初に行った時はあまり満足感とか豊かさとかはなかったものが、1年後の整備をしたことで、改善させることを示しています。作業の前後にも毎回気分を確認していました。全ての気分評価で、いらだち感、緊張感、憂鬱感、爽快感において改善されたことが示しています。

今度は1人の人と森の中を1年間一緒に歩いて、どういうふうに変化していくのだろうかという研究をしました。全ての気分において1年間毎月1回一緒に歩くことによって改善、復帰が改善されたことが示されました。変化は3段階あって、最初は天地効果と爽快感、リフレッシュしたりまた単純に楽しんだりしていました。次のステップで自然の中のことをお伝えていきます。毎回伝えていくといろんなことに気づきだして、その人の感性が覚醒してきて、自然に対しての気づきを得られると、今度は自分に対してもすごくよくわかってくるようになります。自分のことを認識し、こういう自分がいいのだということを受容して、それからまたを話したいということで、積極的な対応が始まっていきます。それによってその人が抱える問題っていうのがわかり、それをどうやって対処していくかっていうのに繋がっていきます。ステップが上がると、今度は本当に問題解決の方で、今の自分よりももっと成長していこうっていうような段階に行き、自分自身の肯定感が上がり、やる気が出て、全てに対して前向きな姿勢になっていきます。1年間ずっと一緒に歩いているので、自然を楽しむということ、最初の段階よりもさらに深く楽しむようになっていくっていう傾向が見られていくのはわかります。

次にオファーをもらって、都市部で働いているIT企業の人たちを働いているビル下にある木々のある小さな空間を使ってリフレッシュさせてもらいました。休憩時間の45分を使ってやってほしいとかなり短い時間で要求をされました。とりあえず5分間寝ましょうということで、寝ました。そのときにただ寝るのではなくて、風の音や葉が揺れる音、鳥の音、また寝転がって土の上でどういように感じるかっていう、ということ意識して寝てみてください。と伝えました。その結果ですけど、最初にバラバラで皆さん集まってきたのは帰る頃にはすごく集合して、こういう気持ちになったという非常に会話が多くな

って、その場の空気とか活気も出てきた。和気あいあいとした雰囲気です。帰ったっていう結果になりました。朝出勤して帰るまで皆さん外へ出ない、30階なので窓も開かないので、外気も入らないです。やっぱり時々外に出て、近くに自然の公園があるので、香りや風を感じない駄目なのだと振り返りもできました。たった5分間ですけど、ちょっと自然の中で過ごすことで、リフレッシュできて、自分自身を振り返る体験もできるってことがわかりました。

次には、1日ツアーで健康意識をしたイベントを行いました。森林浴ツアーでノルディックウォーキングポールを持って体を動かしましょう。さらに滝を鑑賞しながら自然の中で過ごしましょうということを行いました。その時のノルディックウォークの中では、森の中を歩いているときに森林インストラクターの方に付いてもらって、この森はどういうような森で今カシナガが発生して問題が起こっているのですよとか、こういう樹木があって、匂いのかいていますかっていうのを教えてもらいました。さらに滝の時には滝ガールの方がいらっしゃって、滝の見方をすごく細かく教えてくれました。滝の粒になってみて、上から落ちてみるっていう、そういう体験をしてみてくださいとか、今流れている滝はどういう人のように想像してみてくださいっていうふうに言われながら鑑賞した。気分評価の結果は、一応始める前に今日は来たのだということで、もうガンとポジティブ感情がすごく高かった。ネガティブ感情がある程度低かったです。ウォーキングしたらそのポジティブ感情がもうちょっと上がり、滝鑑賞というのはちょっと下がり、プログラム終わりの時は下がった。ネガティブ感情っていうのはやっぱり時間が自然の中で過ごす度に、それがだんだん改善されてきたってことがわかります。ここでは何が良かったかっていうと、皆さんおっしゃったのは解説があって楽しめた。滝も本当に教えてもらえたことで、もう見方が変わったと教えてくれました。ゆったりしている時間があって良かったと、いうことくれました。事例からわかったのはやっぱり森林空間とゆとりのある滞在時間、あとスケジュール重要性っていうのがあったのと、やっぱり解説をすることでより森林へのとか、滝への親しみや興味が向上したってことがありました。

次に「青梅の森」っていう里山で青梅市行政の職員さんのメンタルヘルス研修というのも行います。普段ちょっと疲れているので、試験的に試しました。時間は1時間半取り、森歩きをしました。その結果として、ポジティブ感情は改善されませんでした。ネガティブ感情がぐっと改善されました。ここでの感想も歩いて疲れたってこともありますが、社内にいるときは仕事のことばかり思い出すが、森の中だとすっかり忘れたところでも前向きになった。もう何にも考えなかった。さらにはもう1時間半歩いただけで、今は自分でいいと思った。すごい自己肯定が向上したっていう結果が得られました。行政の方外にも出ますが、デスクワークが多いです。歩くことで運動機能が向上します。天地効果で気分もリフレッシュすることでネガティブ感情が下がりますし、五感を活用されるので、気分がそれによって自分の感情、今どういうふうに思っているのだろうっていうことが把握でき、さらには、今いる自分を客観的に見る対峙する経験も得られることがありました。場所の変化をしたことで、その普段職場では見たことはない、同僚だったり上司だったりっていう姿が見られました。この方ってこんな表情がある、こんなに明るい部分があるのだっていう、今までは見えなかったその人の姿を見て、よりコミュニケーションが促進するってことが得られたと思います。

次に武蔵野森林公園っていうところで行った視覚障害者のレクレーションをやりました、普段なかなか屋外に出る経験っていうのはない生徒さん、この学校は外で遊ぶことがあ

	<p>んまりないので、校庭が半分しかないです。そこから見ても屋外で活動するっていうのはほとんどない生徒さんだろうなと感じられるのですが、その方々がちょっとでこぼこした地面のある場所に出かけて、自然っていうのを感じる体験をしました。普段歩いているのはコンクリートが多いですが、ここではあえてでこぼこした森の中、土の上を歩いていたり、芝生の上を歩いたりっていうことで、足やその杖を感じることで自然を感じてもらいました。木ってこういうものだよっていうことを耳から聞いてわかるけれども、実際に触ってもらいました。木っていうと、1種類ぐらいしか思いつかないかもしれないですけど、赤松は鱗があるよとか、コナラはゴツゴツしているよっていう、実際に触ったことによって、言われたことと、その体験が一致して言葉が理解できるようにと、経験をしました。</p> <p>森林を利用した健康づくりで感じることは、森の中に何回も行くことによって、人の感性がすごく磨かれて、鋭敏になっていく傾向があるってことが分かりました。それによって、普通のところで会ったときとは違って、気負わず自然体で振る舞え、その人のあるがままの姿が現れてくるのだらうなっていうのを感じるようになっていきました。すごく大事なことは、一緒に森に行ってくださいだけでなく、介在者がついて森の説明をしてくれることと、継続していくことが大事だと思います。</p>
<p>議事説明 山下座長</p>	<p>次の議事に移りたいと思います。(2)(3)(4)の順番を入れ替えさせていただきます。先に(3)(4)でこの後に(2)の50年後の柳津町の森林についてご出席いただいている委員の皆様よりご意見を伺いたいと思います。</p>
<p>(3)柳津町の森林利活用ビジョンの原案について (4)柳津町森林のゾーニングについて 田部副主査</p>	<p>柳津町森林利活用ビジョンに関してですが、主にこの冊子でご説明をさせていただきたいと思います。森林利活用ビジョン1ページ目は構造ということで、イメージ図でございませぬ。スローガンに関しては、基本的には委員の方の皆さんからの意見をもとに作り上げていくものであるんで、まだ決定というものではないです。そのスローガンに向かって各政策の取り組みを進んでいくというような、それが森林利活用ビジョンの基本的な構造になります。スローガンこれは仮に入れていますが、これに関してはこれまでの意見、皆様からの意見をもとにスローガンこのようなものはどうだろうかと、いろんな要素を抽出した結果このようにどうだろうかと記載しております。皆さんの意見次第で、形が変わっていくと思いますが、今日はアクションプランを決めていくのが主なところになっていきます。スローガンですが、「未来に活かす宝の山柳津」もしくは「未来に活かす宝柳津の山」と宝を柳津と呼ばせるというところが上がってきています。共通しても宝の山っていうキーワードでして、それを元にそれを未来に繋げる取り組み、宝の山を磨き上げる取り組み、宝の山を守るとき、宝の山の新しい魅力を見つける取り組みというところをビジョンに向ける取り組みの方向性ということで、四つの方向性の取り組みをしていかないとどうかと記載しております。</p> <p>次のページ、このビジョンの物語も必要かなというところがあります。これまでの意見の中で、これまでの森林整備は、例えば将来や自分の子供とか孫のために植林をしたもしくは間伐をした枝打ちをした、そういう思いがあったと思います。そこを何らかの形で言葉の形にして残していきたいということで、ビジョンに組み込みたいと思いました。どのような言葉がいいのかなっていうところで、宝の山っていうキーワードを考えました。その「宝の山」は皆さんご存じのように会津磐梯山の歌詞の一節から取ったところと、柳津町にとっては柳津町と西山村が合併した際に、西山村が持っている村有林100年スギがいっぱいあって宝の山だと言われて、当時から大事にしようって合併当時言われていたという歴</p>

史があります。柳津町独自の歩んできた道のりを踏まえて、柳津町の山っていうのは宝の山だっていう、ストーリーづけを思いました。

ビジョンのスローガン案については、このような形にしたいと思っております。ただ案なので、これは皆さんの意見で修正していきます。

今日は、その下に繋がるアクションプラン、具体的な事業のところを中心にご意見をいただく形になると思います。まずそのスローガンから、「未来に繋げる取り組み」「磨き上げる取り組み」「守る取り組み」「新しい魅力を見つける取り組み」の四つの方向性でそれぞれ事業を整理した。

次のページからこの主体の3段表示になっていますが、その3段メインは内容になっています。具体的には森林の未来に宝の山を未来に繋げる取り組みはどのような形かといいますと、例えば森林の境界明確化、所有者と意欲向上させる取り組み、木を伐る達人を育成する後継者育成する取り組みというところがあります。磨き上げる取り組みとしては森林整備を推進することや林道整備を推進というところ。守る取り組みとして鳥獣と共生できる森づくり、新しい魅力を見つける取り組みの方向性としては、観光に資する森作りや森林環境学習を推進するっていうところが方向性として記載させていただきした。

具体的な事業が次のページ4段表示になりましたが、事業が細かいので項目ごとにそれぞれの方向性ごとに見ていきたいな思います。次のページです。宝の山を未来に繋げる取り組みのページです。この取り組みを見ていただければと思います。利活用ビジョンの運営事業、森林境界明確化事業、森林経営管理制度や認可地縁団体活用推進事業、経営計画作成推進事業、木を伐る達人後継者育成事業ということで六つの事業取り組みを記載しております。利活用ビジョンの運営事業というのは、この利活用ビジョンを作って終わりにはしたくないということで、この利活用ビジョンを今後年1回、検討会を母体に運営会議というものを新たに組織させていただいて、その運営会議でこのビジョンの進捗状況やアクションプランは実証検証を行う会議をしてきたいです。さらに、森林利活用ビジョンを作っている箕輪町、先進地視察施設に行った町で、キックオフイベントを行っていたと情報等もいただいています。作ってから広報周知をし、それに結びつけて森林への意欲を高める取り組みをしていきたいと思っています。

境界明確化事業に関しては、この後ゾーニングのところでも触れますが、境目がどこかわかんないっていうところが非常に多いというところもございまして、それをはっきりとさせるような取り組みをしていきたい。それが終わった後に森林経営管理制度、国で進めている森林経営管理制度をした方がいいのではないのでしょうか。モデル地区の取り組みを踏まえた、こちらの所感でございまして、委員の皆様のご同意いただけましたら、柳津町の林政の進め方として、まずは境界明確化をしてから、町が管理する森林経営管理制度を進めていくことというような方向性に持っていきたいと思っております。認可地縁団体活用推進ということで、柳津町には二つ認可地縁団体があります。芋小屋地区や藤地区がありますが、これは共有林にも広げていけないかという、周知です。講演会などの機会を作っていくということです。経営計画推進作成事業っていうのは、ふくしま森林再生事業で実際に山に手が入っているところがあり、これを進めていくというような取り組み事業を考えております。後継者育成ということで、柳津町の森林で大規模な事業者をこれから作るのではなく、ここにいらっしゃる杉原さん菊地さんのような、スペシャリストを育てていきたいというような事業です。大規模事業者の方に行くのだったら、機械を買う補助などを中心だったかもしれないですが、そうではない方向性としたら、その人の技術を勧め

たり、特殊伐採技術を磨いたりするのに、補助するなど、いろんな方向性が見えてきますので、どのように行くのかを議論して進めていければと思います。

次は、磨き上げる取り組みということです。これに関して大体四つほどの事業が紐づいています。まず町有林管理事業ということで、柳津町は町有林が非常に多く、また材積もいっぱいあります。植林してある町有林がいっぱいあるというのが特色としてあります。これは町民の財産です。有効活用するのが求められていることだと思っています。ただ木を切って木を売るだけでなく、Jクレジットっていう森林に新しく植えて、CO2吸った数量を他の企業に買ってもらう。喜多方市では市有林でやっていますので、近隣自治体の動きも参考にしながら、取り組んでいくのはどうかと思います。ただ境界がはっきりわかってないところもあるので、まず譲与税や補助金等の財源を活用して境界明確化は先行してやっていく必要があります。国庫補助金を活用した森林整備ということで、実現可能性を模索していくということでまだ具体的にはありません。林道維持管理事業、これは林道の維持管理で建設係とやっていますが、これを計画的に修繕整備行うように財源を作る、譲与税を使っていきたいと思っています。あと公共建築で木材のPRをしていきたいと思っています。

次に宝の山を守る取り組みとして、これは三つ掲げています。まず森林緩衝整備事業、で、間伐で見るというところが大事だと思います。県の補助金で進めていきます。次にクマと共生できる森づくり、ミズナラがナラ被害にあって少なくなってしまった。ミズナラを植林して、PRをしてみんなに興味を持ってもらうきっかけを作っていきたいと思っています。里山整備事業これも県補助ですけど、地区で里山整備するっていう取り組みに関しては補助するメニューがございますので、これをPRして取り組んでいただきたいと思っています。

続いて、「宝の山」の新しい魅力を見つける取り組みについて、この新しい魅力というところは、竹内先生に来ていただいた講演中に森林浴で対話を通したカウンセリングと、いろんな使い方が森林にはあるということで、その体験でできるフィールドとして、森林公園は柳津町にあります。今キャンプ場として主に使っていますが、そのキャンプ場の方向性を、前回の検討会の皆さんからいろんなご意見が出たと思うのですが、この方向性を今考えるべきときに来ているのかなと思います。キャンプ場という方向性から前々回のきのこや森林のカウンセリングなど、町民のための町民の利益になるものに作り変えていくのはどうか。町民が活用しているところには当然観光客も来ていただいて、町民が充実した満足できる施設は、当然観光の方にも有益なものであると思います。そのような考え方を持って森林公園の再整備再検討を進めていきたいと思っています。その中で、薪づくりや炭作り、きのこ体験また森林カウンセリングいろんな使い方ができ、体験型の施設。体験活動エリアというのを考えていきたいと思っています。

次は景観整備事業で、柳津町非常に風景がいいと言っているところもあるので、特にJR只見線の沿線あとは国定公園に編入された只見川の周辺で景観の整備、地区の要望を受け付けて、それに対して実際に整備をする、もしくは補助金をする事業を検討しております。譲与税を活用して取り組みをやっていければなと思っています。

次に森林環境学習事業は、いままでのことを引き続きやっていくことや、奥会津ビジターセンター、県でビジターセンターを作っているところがあるので、そこと連携したPR活動や講演会の企画が十分できるとしています。

資料のマインドマップを整理したものは各自でご確認ください。ビジョンに合わせて、今

	<p>回 2 枚図面の方をつけています。これは林班単位が大きい範囲、林班 155 班が柳津町にあります。林班で森林資源を活用可能なエリアというのを判定しています。これは飛行機を飛ばして航空レーザー測量をしています。柳津町の地形データ、材積がどれぐらいあるかっていうデータ等を用いて、あとは傾斜がきつくて崩壊が危ないところなどそれぞれ点数づけをしたデータがございます。それぞれの林班で使えそうな資源があるから、ここは林業をどんどん進めていった方がいいのではないかなという判断の仕方や優先度が高い方、1 から 5。収益性ある事業としてやっていくのは非常に良い方法です。特に林道がしっかり整備されているところを中心に赤色で活用しても、良さそうだというエリア、森林公園の周辺は非常に赤色のエリアになっていまして、森林公園の辺りも林道はしっかりあり、材積もしっかりあるということで、ここは非常に優先度が高いと見て取れるかと思います。もう 1 枚は、収益性ゾーニング判定結果です。林班単位でお示したものは広い大きい部分がありますので、その林班の中でもさらに小さい小班、さらに細かく詳しく見たのがこの図になって、この収益性ゾーニング判定結果で ABC ぐらいまでは十分林業としてやっていけると聞いています。中間報告で上がってきた結果がこのようになっていきます。データを基に皆さんにゾーニングの考え方を入れ込んでいくことでビジョンがさらに良くなっていく、また柳津町の林業政策の方向性としてははっきりしてきますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。以上でこちらの方で用意させていただきました資料の説明を終わらせていただきます。</p>
<p>(2) 50 年後の柳津町の森林について (座長、各委員等)</p>	<p>ご説明いただいた内容につきまして、質問やわからないところとかありましたら、お時間とりたいと思いますが、利活用ビジョンの素案、それから併せてこちら参考程度ということかもしれませんが、このゾーニング地図についてもいかがでしょうか。</p> <p>山下座長：地図の大きい林班単位で優先度の付け方について、これは単純に林業としての収益性だけを優先順位として図ったということでしょうか？</p> <p>田部副主査：優先度判定は収益性ゾーニングの小班単位の山の傾斜区分で例えば 25 度以上とか、林道からの距離を総合的に加味して、林班単位を決めています。資源があっても林道が近くにならないところは難しいので、優先度が低くなります。危険なところは優先度が低く、傾斜がきつところは優先度が低く、数字が大きくなっています。資源活用に向けた優先度を示しています。</p> <p>木村アドバイザー：エリアのことですが、航空レーザーを飛ばしたという話で森林簿とは別の見方で、映ったものを尺度に測定されたのか。あと材積というのは、人工林と天然林の区分は反映されているのか。</p> <p>田部副主査：林班単位の判定に関しては、優先順位や材積量の判定っていうのは完全に写真、樹頂点データで判定しています。ただ林班は計画図では分けがこの形になっていいますが、実際にはずれているところがあります。例えば国有林や畑は抜いているところがあります。人工林と広葉樹林を合わせた判定をしています。人工林と天然広葉樹の 2 パターンをそれぞれ作ってもらっています。それを統合したものを示しています。広葉樹の精度は少し下がりますが、これまで蓄積した広葉樹の補正データとかを使っているんで、ある程度正確に出せるようになっていきます。</p> <p>木村アドバイザー：一般的に人工林と広葉樹を比較したときに収益性が高いものは、人工林なので、その補正のところ注意して評価した方がいいのかなと思いました。</p> <p>山下座長：全体のスケジュールで年内を目途に、来年度予算に向けた事業の方向性をこの検討会で話をしていきたいです。それからビジョンのスローガンや四つの柱があったと思</p>

いますが、このあたりは少し猶予があります。順序的には逆になりますが、一番下の部分の構造図で書いてある事業説明、四つの柱の細かい取り組みについてご意見を頂戴したいと思います。スローガンや四つのフレーズについてもご意見をいただけたらと思います。

目黒委員：ビジョンについてですが、具体的に来年度の予算ということですが、全体的な期間、単年度でやるのか、何年間にかけてやるのかによって、その具体的な目標とかで来年度何やるのかっていうところまで、構想があるのであれば説明してください。この全体のビジョンが何年単位で進められるのかっていうことがまず知りたいと思いました。

田部副主査：ビジョンの方向性ですが、50年後というのが向かうところです。どれぐらいのスパンでやっていくのかということに関しては、基本的には単年度の取り組みが主だと思っています。例えばビジョンの運営事業に関しては、50年間毎年やることは難しいので、委託を受けていただく企業の継続性とかもあります。事務局のイメージとしては、ビジョンの運営事業に関しては、5年間ぐらいは毎年やる必要はあるのかもしれない、そのビジョンの方向性や政策を皆さんから意見をいただき、5年間ぐらいの熱があるうちはやっていき、その後に関しては、例えば3ヶ年に1回2年に1回というスパンで検討運営会議の開催をやるのがいいのかなと思っています。あとは譲与税がいつまであるかわからないので、その後に関しては最初の5年間は毎年やった方がいいだろうというのがこちら側の思いです。振興計画審議の年に中間の見直しもやるということも考えられます。ある程度他の計画とリンクした上で一緒に走っていくような方向性を見つけていくと思っています。その他の事業に関しては、ある程度毎年やる事業なので、5年間運営事業の中で見直しをしていく上で、補助金がなくなってしまうとか、あとは時代にそぐわなくなってしまうと事業は止めたり、逆に新しいことが増えたりっていうのも当然あると思うので、アクションプランは皆さんの意見をいただいて、可変でどんどん入れ替えて、新しい考え方でやっていくものだと思います。現時点のこちらでの考え方として単年で、予算取って、運営事業に関しては5年後とか、見直しをかけていく必要があるとは思っています。

目黒委員：今の時点で来年から始めようとするものはありますか。

田部副主査：今の時点で、全ての事業を取り組みたいと思っています。実際に今取り組んでいる事業もありますので、新設する事業っていうのは実はあまりないです。町有林を管理する事業だとか、境界明確化事業というところ。ビジョンの運営事業が新しいものだと思います。今ここに挙げたアクションプランは来年以降実施予定のものです。

目黒委員：森林公園の事業は来年から計画に踏み込む。やっぱり熱量のあるうちに入る予算化してもらおう。体験エリアでキャンプブームがあると思います。只見線から近いキャンプ場ってめちゃくちゃ魅力的だなと思ったので、駅のすぐ下です。近くに宝の山があります。クマの緩衝地帯とか作ったりとかするモデル地区にもなると思ったので、ぜひ森林公園の整備計画は来年予算で計画作りに踏み込んでもらいたいです。

スローガンについて、「宝の山」を結構強調していると思います。「宝の山」の説明が下の方に来ているので、これを最初の方に持ってきた方が良いと思います。ビジョンのポイントとしては、林業とか森林を強調していると思うので、そうしたときに「宝の山」っていうのは、魅力的なキャッチコピーかなと思います。経済に結び付くっていう印象で、整備っていうのが強調されると面白くないと思います。

田部副主査：森林公園の整備計画の方向性を考えていきたい。来年度予算化していただいて、環境交付金の基金が500万ほど積み立てしています。それを活用して来年度しっかりした整備計画というのを検討する。その際には、運営会議の皆さん、今回の検討会皆さん

からご意見をいただきながら、考えたいと思います。2点目の部分、貴重なご意見ありがとうございます。おっしゃるように思いを前の方に印象付けたいと思っています。

森林環境税の県の方の交付金の積み残し分があるので利用したいと考えています。

山下座長：目黒委員がおっしゃったような、優先度の高いところ、着手したいところを来年度予算に向けて出すっていついところだと思います。表のビジョンの中にどのように組み込むかっていうのは検討が必要かとはおもいます。重点的に町民の皆さんにぜひ伝えたい、力を入れたい取り組み、今回出していただいた素案は並列の形で事業があるので、マンパワーもお金も限られていますので、その中で優先的に時間とお金を割くかっていうところが重要になると思います。まず森林公園はかなり優先順位高くなっていて、そこから波及効果っていうのも出てくると思いますので、そういったことも勘案しながら他の事業は少しメリハリをつけながら、かつ継続的に続いているものは継続でいいと思います。特に新しいことは、その後は優先順位も考えていただけたらと思います。

橋本委員：ご説明いただいた素案に関しては、一次産業のことで、既存事業を進めていきたいという説明だったかと思います。林道維持管理事業を入れていただいてありがとうございます。毎年度2000万ぐらい維持費かかっています。検討会が4回目ということで、素材生産者の方から利活用するっていうところでは、落とし込みがこれからだとは思いますが、実質的にはできるところからということで、7年度から取り組めることから落とし込んだというイメージでよろしかったですか。その後の二次的な利用やエネルギービジョンに反映させる方法や、森林と健康で森林公園の新たな活用方法など、具体的なところまでは、これから考えることでよろしいでしょうか。

田部副主査：森林公園の利活用に関しては、まだ具体的にありません。ただいろんなご意見いただき、前回の検討会でも里山のシンボルとして整備してというご意見があったかと思っています。そのような方向性も一つ、また今回の竹内先生に健康作りカウンセリングでやろうみたいな形も面白いと思います。森林公園の再整備に向けた会議などでもご意見を頂戴したいですし、皆様からこの検討会で伺っていければと思います。材の利用とかの2次産業や、エネルギーに関してというところはこのビジョンの中には突っ込んだ話が入っていません。2次利用に関しては、次の視察研修の岩手県住田町は、非常に面白い取り組みをされていると伺っています。製材所の隣にチップ工場があって、チップしたもの使って、製材+エネルギーと活用しているので、そういうのを視察していただき、それを来年度には間に合わないかもしれないですが、その先を見据えたビジョンの取り組みの中に、入れていただく、この項目の中にさらに追加して、令和7年度からすぐには取り組めないかもしれませんが、令和8年度以降に検討してほしいという内容を組み込むことはできると思います。少し前後してしまう部分があるかもしれませんが、地場材を製材し、チップをエネルギーに使う、薪作るということに関しては、まだ入れ込む余地はあると思いますので、ご意見を頂戴できればと思っています。

木村アドバイザー：アドバイスです。期間のことですが、よくあるのはその5年を一期にして、5年後に見直す。まずは5年間、この仕組みで走り出すっていうのはあるので、5年ぐらいが期間としてはいいのかなと思いました。その場合は来年度も進めることも、2年目3年目にやるようなものも検討しますということで、どんどんにじみ出しを入れていくともっと先々が見えるような計画になるのかなと思います。

質問です。黒い枠の「宝の山」を守る取り組みに関して、ここで鳥獣と共生する森作りという方向性がありますが、なかなか鳥獣と共生って難しくてこのところは自然とか環境

に配慮したような、自然と共生するとか、生き物だけ鳥獣だけじゃなくてもっと大きな枠組みで共生するっていうような言葉にした方が、広がるし応援団が増えるのかなと思いました。あと熊と共生する森作りですけど、ミズナラ材の利用を前提にテーマを作られたと思いますが、クマのその生息ってミズナラだけじゃなくて、ブナの影響も学術的に言われているので、だからここに入れるのがいいのかなと、逆にそのミズナラの利用であれば、別のところテーマの方でもいいのかなと思いました。

もう一つ「宝の山」を守るについて、柳津町は山地災害が比較的多い地区なので、激甚災害や豪雨も激しくて、そこをしっかりと守っていく。予算はないにしても、山地災害危険地区のパトロールをしますとか、今やっている内容でも人命財産を守るっていう項目も一つあった方が、幅が出るかなと思いました。

参考までに自然共生サイトっていうことを環境省で推奨していて、全国でいろんなところが指定されています。それは企業や自治体で、意外とハードルが高くて、検討の材料として、環境を自然と共生するっていう宝の山にしていきますっていうことで、自然共生サイトに登録をしていくとかも、観光向けにもなると思います。

林業的利用っていうのをテーマとして打ち出していましたが、この中でどんなふうに入ってくるのかなと思いました。

田部副主査：クマとの共生は難しいところがあるかもしれないので、文言に関しては少し検討させていただきたいと思います。思いとしては、緩衝帯を整備しつつ、餌となるドンリミズナラを増やしていったって、なるべく人里に来ないようにしたいと思います。文言が、間違っって受け止められてしまわないに検討させていただければと思います。

災害に関して町全体に関わると思うので、関係課とも協議をした上で、入れるか入れないか含めて検討させていただきたいと思います。激甚災害は多くて、土砂崩れで道路が遮断されてしまうところが、ここ数年はあるので、何かしらの政策は入れた方がいいかもしれないのでそこは検討させていただきたいと思います。

材の針葉樹広葉樹の林業的利用についての項目は、宝の山を磨き上げる取り組みに集約考えさせていただいております。町としてできることは森林整備や林道整備が主になりますが、林業的利用はこの項目に集約されると思います。

木村アドバイザー：情報提供で、学会に参加した際に広葉樹の研究をされている方がいて、調査されたのは盛岡と天童と新潟の広葉樹木材市場で、非常に広葉樹が良いらしい特に盛岡で、天童の二、三倍をするような値で売れていると、かなり集まっているそうです。福島からも盛岡に買い付けに行っていて、福島の家具屋さんとかです。広葉樹の宝の山、物によってはすごく可能性があるんで、広葉樹の利用の仕方を検討していきますとか、何かの使い方を考えてくような選択も良いのではないのでしょうか。ミズナラが多かったです。針葉樹の伐採をしたときに近くにあって、併せて伐採したっていうのと、あと針葉樹をやっている方が空いた時間にまとめて伐ってきたというので、岩手県森連の木材販売のウェブサイトがあって、自由に閲覧できるようになっている。

杉原委員：林業を始めて62年経ちました。60年だといろんなことがあり経験はずいぶんあります。ちなみに今、柳津町の50年計画ということになりますと、私達が50年前に素材生産が始まりました。昭和52年の4月1日から始めた。林業で福島県内はほとんど回って、どんな伐採もできるし、木も分かるようになってきました。昭和60年頃は、地元でいろいろ学校とか体育館作ろうとか、各町村で県や国の方針だと思いますが、対応して材料だけ出したこともありました。神社仏閣でいろんなところにも、出しました。柳津町の

ビジョンの中にあるこの地図は、ほとんど地形の悪いところは国有林でなかなか場所が悪くて出せません。あと残っているところは、公社造林で広葉樹はあまりないです。共有地の境界も分からなくなっている。ミズナラなどの広葉樹については、盛岡の共販所からも、この地区までに、山の探索にきています。クルミ材が立米 17 万円でした。トラック一台で 100 万ぐらいになります。これから 50 年後先は、今の杉をどのように販売伐採をして、その後に植えるなら自然木が良いと思う。自然木は災害に強いです。だから山抜けがしにくい、ケヤキやミズメザクラなどの根の張りが全然違うので、樹種転換をする計画を考えた方がいいと思います。

菊地勇委員：若者を引きつける対策。50 年先だけでなく現在も若者に全然魅力がないです。人もいないし、会議で出ようとしてもしない。私たちが高齢者だけが出席している。何かを考えなければ 50 年先のことを、人材育成する取り組みをしないといけないと思います。西山地区には学校林があって、それを全員で行って作業することをやっていた。歩合制みたいなことで。やっぱり体験すると忘れないし、体験が一番残ると私は思っています。競売所の単価で、直径 1 m のウダイカンバで一本 40 万円でした。大径木が欲しい業者がいる。でも、そんな丸太も少なくなっています。

山下座長：検討会で出た意見の中で、資源活用のオレンジの部分は、森林整備で推進もここに入ると思いますが、新しい事業として広葉樹を活用するためのソフト整備モデル事業とか、特に流通市場がネックになるのかなと思いますので、先ほど言ったようにどうやってコストを下げてくれるかとか、どういう資源だったら需要があるのか、ニーズ調査とか、ソフト事業もこれ、先の事業ですが予算に組み込むと、その販路拡大に向けた取り組みをご検討いただけたらなと思いました。

田部副主査：柳津町を含めた、5 町村の奥会津振興センターで広葉樹の販路拡大に関して勉強会をしています。ここ数年広葉樹、盛岡の市場が盛り上がっています。去年も視察に行っています。広葉樹が非常に高いというお話はこちらの方でも把握しまして、直径 20 センチでも、フローリングに使えると聞いています。振興センターと事業を一緒に取り組んでの販路拡大に向けた可能性を模索しています。1 町村では材料が集まらないけれども、3 町村でまとまって 20 立米例えば 1 トラック分まとまれば、流通しやすいといった議論が進んでいます。明るい未来が見通せるような取り組みをしていきたいと思っています。

山下座長：このビジョンを見れば、町の森林とか森林資源とか、全体の方向性がわかる。というものをぜひ作っていただいて、箕輪町ではこの項目はこの人たちが主に取り組むみたいな役割分担があり、連携することも重要だと思います。全部を柳津町が責任取ってやるのではなく、ここは民間事業者と町と一緒にとか奥会津 5 町村と一緒に形を整理していただけるとすごくありがたいなと思いました。

それから熊や野生動物、鳥獣問題ですが、センシティブな方もいらっしゃるの、書き方が難しくなっています。「宝の山」を守るってという言葉で鳥獣と共生できるって書かれていたと思いますが、一方で先ほどの災害に関しては生活を守るための山作り、森づくりの観点も必要なので、動物と住み分けができる里山作りや、出合わない里山作りみたいな、具体的に理想的なキャッチコピーをどうするかってところが難しいなとは思いました。宝の山という言葉をもしかしたら使わない、もしくは二つぐらいここを何とか山作りと取り組み並べてもいいかもしれないです。その辺りも含めたキャッチコピーと一緒に私も考えたいと思いますのでお願いいたします。

(5) その他
オブザーバー等
によるアドバイス等

高鷲オブザーバー：町から収益ゾーニング判定結果という、小班単位と林班単位の判定の結果がありました。これは林業経営をしていくために適したところで色分けされてわかりやすいです。これと関係して災害のお話もありましたが、災害のことも踏まえて、災害や地滑りの可能性が多いところの場所の判定図も一緒があると良いと思います。それから熊との共生できる森作りのところで、ミズナラ材の利用っていうのがありましたが、面白いなというふうに思います。今だから高く売れるっていう事例も紹介されていましたが、企業の経営っていうことでまとまった量を出すってことが必要になってきます。もっと踏み込んで、団地を作るみたいな、ミズナラを大面積で作っていきみたいなことを50年後見据えて、方向性を出していった方がより現実的だと思います。

景観の関係で森林公園の整備です。私も見せていただきまして、駅にも近いっていうことだったので、ぜひ来年度から事業をやっていただければと思います。それと併せて、只見線沿線の景観的な機能というものも森林にはありますので、そういったところの整備も合わせて早くやっていけたらいいのかなと思います。例えば車である走ると、木が切った後に放置しており、天然更新が今問題になっています。なかなか更新しない、難しいです。そういう場所が多いとすごくイメージ悪いです。私も北海道にいましたが、北海道森林が多いと言われていますが、昔森林だったようなところが、もう笹山藪になっているところがたくさんあり、すごくイメージ悪いので、だからそんなようなふうな森林をなくしたと思うので、まずは沿線の森林整備をやっていければいいのではと思います。

木村オブザーバー：素案の中身が分析力、素晴らしいなと思いました。事業の紐づけも、結びついていてというところで、限られた予算ですけども、本当に必要のところっていうところを分析されて、それに繋がっていく事業を小出しにされているということで普段の会議でも舌鋒鋭い田部さんの普段の勉強が活かされていると思いました。

山地災害のところは加えていただきたいと思っておりました。うちの森林土木課の方でも、大規模な工事やっております。初回でもグリーンタフという柳津の脆弱な地形地質の話がありましたが事業には繋がらない、繋げるような書き方が難しいかもしれないですが、災害に注意しながら、考えていかなきゃならないっていうところを押し出した形のビジョンにしていればと思います。それから杉原さんの方からも初回でもありましたが、森林所有者にお金が行くようなところが今大きな問題となっていて、経営意欲の減退というところが起きております。それはゴールかもしれないですけども、その気持ちが大事です。再造林のシンポジウムで星会長もご登壇されたところですが、林野庁全体としても補助金が全てに行き渡るっていうことができないので、メリハリをつけたお金の使い方をしていくべきだろうという中身でございました。実際に伐採をした後に、その林地でどれだけの木を育てる地力があるのかという評価、それから林道の近さもありますが、伐った後にお金になる山、育つ山というところに集中的に投資していくような形に変えていかないと駄目だと、非常に参考になりました。

直接的には経営意欲には繋がってはいかないとは思いますが、森林環境教育というところそういった取り組みをやっていくと、漢方薬のように、皆さんも思いに繋がっていくのかなと、そこを大事にしていればと思います。私事ですけど、先日博士山に登ってきました。駐車場もかなり整備されていまして、かなり急登で、四つん這いでロープ使いながら登りました。眺望が非常に良くて、モザイク像の柳津の森林もよく見えたので、この山が本当に宝の山になっていけばいいなというふうに感じました。

渡部オブザーバー：サポート事業という県の事業地域作りに係る補助事業というもので、森林の地域資源を利活用するっていう事業で2年前から、今年3年目で南会津町の合同会社スコップ松澤さんと一緒に事業しています。サポート事業は3年で成果を出すっていうところあるので、1年目は行政向けに広葉樹の付加価値が高まっているっていうところを知っていただいて、2年目は事業者の方を巻き込みまして、盛岡に視察に行きまして、実際に体験していただいて、現場作業での体験という形を行ってきました。今年3年目で難しいところです。それは地域住民、つまり所有者の方たちの協力がなければ基本的には森の活用ができないところがあります。一番付加価値がある山の方も使えなければ、やはり意味がないので、所有者の理解が必要です。森の価値がまだわかっていないっていうところです。やはり知っていただくところが一番必要だと、今考えているところでもあります。実際には共有地の難しさがあり、時が経てば、どんどん相続問題で厳しいところがあるので、柳津町が境界明確化事業で共有地に切り込んでいくことで、うちの事業と連携してできるのかなと思います。森の価値、「宝の山」っていうスローガンはすごくいいです。この森はお金にならないとやはり人は動かないと思っています。それを知ってもらっていうところで進めるっていうところが必要なのかなと思っています。今度、先進地の鳥取県智頭町に視察に行き、地域住民の方たちが自分たちで経営をして、黒字を出しているっていうところがございます。松澤さんの繋がりがあるので、視察に行き、そちらの取り組みを還元していければいいなと今年度は考えているところです。そのサポート事業がこのような形で進んでおりますので、いろいろ情報等で共有できることは可能です。

この森林利活用ビジョンの広報周知がこれから一番大事だと思います。これから地域住民の方から何をやっているのかと声が聞こえてくると思うので、イベントを開催して周知するっていうのはすごく大事なところだと思います。その中で森林公園の活用、この事業に親和性を持たせるような部分が必要かなって考えまして、委員の中でも、昔は森林公園からの景観が良くて見えるっていうところもあったので、一つ大きく森林公園整備事業をしても良いと思います。例えば整備事業に地域の子供への森林学習や木を伐る達人、これはすごく楽しそうだなと思いますので、こういったところで繋げていくようなところが非常に楽しい部分だと思います。あとは講演会の時の、野草の話はすごく楽しくて、森林公園でも野草や木を見ながら食事まで繋がって、運動と食事と睡眠まで繋がるっていうところ。元気になる健康の話に繋がるので、ストーリー性ができて良いともいます。また前回のきのこの部分も体験しながら、子どもたちを体験させるっていうところも、公園に合わせて取り込めるっていうところは非常に大切な部分だと思います。森林公園、どれだけ周知して使っていただいて、地域住民の方たちに知ってもらって、さらに地域外の方にも来ていただくっていうところの取り組みが必要なのかなと思いました。

木村アドバイザー：ビジョンに関しましては、柳津町らしさが非常に出てくるビジョンだと思います。こういうビジョンってこの通り一辺倒になりがちなのですが、随所に柳津町らしさがでてくるビジョンだと思っています。それは何より委員の皆さんの、コメントがそのまま生かされている。皆さんが熱心に毎回参加いただいて、大なり小なりコメントいただいているものが、柳津町ならではのビジョンになっているので、感銘を受けております。ビジョンは作って終わりじゃなくて、これからだと思っています。一つ、これは町民の方のビジョンです。主役は町民の方です。町民の方がわかるような言葉遣いのビジョンにする必要があると思います。自分は素人だと思って、ビジョンの最後の作り込みをしていただければと思います。一つ一つの事業とか政策って、綺麗に四つに分かれるってこ

	<p>とはないと思います。他のところにも関連しているから、再掲っていいまして、一つの政策に厚みを持たせる。いろんなことをやっているの見せ方も一つあります。最後に一つ、どうしても今の熱量は高いけれども、残念ながら時間とともに必ず冷めていきます。なので、初めが大切です。大変だと思いますが、予算の範囲内でやれるものは、どんどん初年度に予算を付けて、やれるものをやりましょうと、ルールが敷かれれば、あとは続けていくだけなので、事務局の皆さんにはご苦労だとは思いますが、出来る方々なので、願いをしてしまいました。</p>
<p>5、その他 (1) 第5回検討会について (2) 第2回先進地視察研修について (3) 事務連絡</p>	<p>(1) 第5回検討会について。 14ページをご覧ください。新年早々恐縮なのですが、1月8日の水曜日に、検討会を行います。講演会について5回目以降はありません。あと5回6回と、2回開催です。ビジョンの取りまとめの方に注力するというので、講演の方は予定せずに進めていきたいと思っています。議題についても、ビジョン案について取りまとめて中間についてブラッシュアップして報告いたします。</p> <p>(2) 第2回先進地視察研修について。 次のページ資料の中ください。第2回先進地研修についてということで、木材を川上川下と循環的に、機関や事業体が連携してうまく回している一つのモデルとなっております。岩手県住田町を訪れて、見たいと計画しています。今月12月20日から21日までということで、1月に入りますと、柳津町を離れるのが難しい方もいらっしゃると思うので、比較的雪の少ない12月年内にやろうということと、会津農林高校生に先進地を見せたいということで、学校と相談しましたら、冬休み入ってすぐが、良いということもポイントになっています。それで現在住田町と調整しております。町の方でも頑張ってくださいます。予定は土曜日の見学なので、限られているようなところもあります。金曜の午後の、あまり遅くない時間について、役場から説明を受けてもう1ヶ所、どこか施設が見られるところがあれば、そこを見学するというような格好でやりたいと思います。移動は奥会津観光バス使います。今回の参加は、林業従事者や関心の高い委員の方が主体でお願いします。参加費は無料です。食事等についてはそれぞれ実費をお支払いいただくことと、委員によっては柳津町から旅費が出る場合がございます。</p> <p>(3) 事務連絡 特にございませぬ。</p>
<p>6、閉会</p>	<p>それでは本日の検討会は、閉会いたします。ご参加ありがとうございました。</p>

以上